

GLP上の病理ピアレビューの取り扱いに関してIFSTPからのコメントリー発表

「第25回の学術集会の際にGLP上の病理ピアレビューの扱いについて、日欧米よりパネリストを招いてディスカッションを行い、本学会機関誌に"Panel Discussion: Regulatory Perspective for Pathology Data" (J Toxicol Pathol 2009, 22: 209-277; http://www.jstage.jst.go.jp/browse/tox/22/3/_contents)としてその記録を掲載しています。欧米では病理所見最終化前に病理ピアレビューが行われることが多いのに対して、現状、日本では病理所見最終化後にレビューを行い、その所見の変更履歴を明らかにすべきとされています。パネルディスカッションでは、病理ピアレビュー(スポンサーレビュー含む)は病理検査結果の信頼性を向上させる行為であり、そのタイミングは、欧米と同様に病理所見最終化前が相応しいとの論議でした。この論議に対して、国際毒性病理学会連合IFSTPより支持する旨のコメントリー "A Commentary on the Process of Peer Review and Pathology Data Locking" が米国毒性病理学会誌に発表 (Toxicol Pathol 2010, 38: 508-510; <http://tpx.sagepub.com/cgi/content/full/38/3/508>) されましたのでお知らせいたします。ぜひご一読ください。」